

平成30年度 出資法人「経営改善及び連携・活用に関する取組評価」事前質問回答票

項番	項目	質問・意見	質問・意見に対する考え方
1	平成30年度取組評価の総括について	現状、本市による達成状況の評価については、「A、B又はC」と「D又はE」を一括りにして捉え、費用対効果の評価についても、「(1)又は(2)」と、「(3)又は(4)」を一括りにして捉えているが、A、B、C、D、Eと(1)、(2)、(3)、(4)の各内訳も示した方がよいのではないか。	資料1の「3 平成30年度 取組評価の総括」の表について、 <u>A、B、C、D、E及び(1)、(2)、(3)、(4)の各内訳の割合についても、表示するようにいたしました。</u>
2	スポーツ協会のコンプライアンスの遵守に関する取組のE評価の意味合いについて【評価シート61頁】	業務・組織に関する取組評価で2件のE評価があり、何れもコンプライアンスの遵守に関する取組であるが、 <u>両者で意味合いが異なってくるのではないか。よりコンプライアンスの管理として、問題であるもの、即ちスポーツ協会については、評価で傾斜をつけることやコメントで根本原因の分析、より厳格な再発防止策等を示していく必要があるのではないか。</u>	スポーツ協会のコンプライアンスの遵守に関する取組につきましては、評価の法人コメント欄に、 <u>その発生原因を追記するとともに、改善の方向性の具体的内容の欄に、研修の実施や意識向上・改善に加え、倫理規程及び倫理委員会規程の整備を行っていくことも追記しました。</u>
3	消防防災指導公社の目標修正について【評価シート283頁】	消防防災指導公社の防火・防災及び救急に関する普及啓発事業の行政サービスコストの目標修正について、 <u>目標設定を誤った理由、他に計算誤りはないのか、チェック体制はどのようになっているのか、今後の対策等についても検討しておく必要があるのではないか。</u>	目標設定を誤った理由につきましては、平成30年8月の目標設定時において、 <u>①「本来行政サービスコストに含めるべき市からの受託料を直接自己収入に含め控除していたこと」、②「本来行政サービスコストからは除くべき各種応急手当講習等のテキスト代を直接自己収入から控除し算入していたこと」、③「H29年度の実績値とH30年度以降の目標値でH29年度決算とH30年度予算を振り所としていたがその両者で計上されている市からの受託料に約5,000千円の差があったこと」</u> により、行政サービスコストの算出を誤り、この度の平成31年2月からの取組評価実施時に当該誤りが判明したため、修正させていただくもので、その旨を行政サービスコストの法人コメント欄に詳述させていただきました。なお、他に計算誤りはございません。 チェック体制及び今後の対策につきましては、これまでの決裁によるチェック体制に加え、 <u>今後は、法人の説明等を基に所管課においても、複数の職員により検討・調整の場を設けるなど、チェック体制の強化を図ってまいります。</u>

平成30年度 出資法人「経営改善及び連携・活用に関する取組評価」事前質問回答票

項番	項目	質問・意見	質問・意見に対する考え方
4	達成状況が芳しくないものなど、管理の必要性が高い指標の進捗管理の仕組みについて	今回達成状況が芳しくなかったものなど、管理の必要性が高い指標については、 <u>その進捗管理を四半期ごとに、所管局や法人自らが、行えるような仕組みを作って</u> いってみたいかどうか。	各取組の指標の進捗管理については、年度単位での評価が基本となるものですが、成果が上がっていない取組の指標等については、より短い期間で途中経過も含め進捗確認を行っていくことも有効と考えられますので、 <u>該当局及び該当法人に対し、そのような手法についても周知を図ってまいります。</u>
5	各出資法人の取組評価結果一覧の機能性向上について	今回、各出資法人の取組評価結果一覧が用意されているが、各取組評価シートの目次代わりとなるよう、 <u>資料のサイズや見せ方を工夫</u> してもらいたい。 また、 <u>法人経営に係る行政コストや指定管理の受託状況</u> なども分かると、より参考となるが、いかがか。	出資法人ごとに「本市施策推進に向けた事業取組」と「経営改善化に向けた取組」と「業務・組織に関する取組」を識別して見やすくなるよう色分けをするとともに、 <u>資料のサイズもA3</u> といたしました。 また、法人経営に係る行政コストや指定管理の受託状況などについては、ようやく各法人の決算が確定となり、現在「 <u>法人情報シート</u> 」の集約を行っているところですので、 <u>まとまり下さい、第2回委員会前までに御用意</u> させていただければと思います。
6	国際交流協会の経営健全化に向けた取組について【評価シート45頁】	1. 補助金及び指定管理料以外の財源について、 <u>H30年度実績はH29年度実績に届かなかったが、法人コメントではその理由について言及されていない。H31年度以降の目標値設定も何を根拠としているのか、達成の見込みはあるのか</u> 疑問である。 2. ホームページ、情報誌等における広告料収入に関して、 <u>H30年度は検討のみで、実績がない。H31年度以降の目標値が、収入の高い伸びを前提に設定されているが、達成の見込みがあるのか、疑問</u> である。	1. 補助金及び指定管理料以外の財源について、 <u>H30年度実績がH29年度実績に届かなかった理由等を、法人コメント欄に記載</u> しました。また、H31年度以降の目標値については、方針策定時の指標一覧に記載したとおり、補助金及び指定管理料以外の財源を毎年1%以上増加させ、 <u>最終年度にH29年度実績に近づけることを見込んだもの</u> ですが、その達成に向けては、年間に計画している有料による講座において一定数の集客を見込める企画や周知による事業収入増加、施設PRIによる利用料収入増加、寄附・賛助金の新規獲得による達成を見込んでいます。 2. 新たな自主財源の確保については、今年度中に <u>広告料に関する要項をつくり、広く周知するとともに関係事業者等に直接働きかけて実績を上げる見込み</u> です。

平成30年度 出資法人「経営改善及び連携・活用に関する取組評価」事前質問回答票

項番	項目	質問・意見	質問・意見に対する考え方
7	スポーツ協会の本市施策推進に向けた事業取組②「指導者育成・派遣事業」について【評価シート54～55頁】	<p>1. 指導者派遣団体の延べ数は、<u>派遣対象が17団体で固定しているとみられるが、派遣対象団体を拡大させる必要はないのか。新たな団体を募る予定がないのならば、指標として設定する意義があるのか疑問である。</u></p> <p>2. 指導者派遣延べ日数は、「特定の団体に偏りがちな指導者派遣を是正する」という目的があったとされるが、団体間の平準化に効果があったのかどうか<u>が171という実績値からはわからない。H30年度以降の、300という目標値も適切なものであるのか、疑問である。</u></p> <p>3. 行政サービスコストについても、<u>目標値を修正する必要がある。また、H29年度実績値よりもH30年度実績値が上回った理由についての言及がない(法人コメントでは、人件費相当額についても計上したとあるが、H29年度実績値にも人件費相当額が計上されているのではないか)。</u></p>	<p>1. 指導者派遣団体の延べ数は、<u>完全に固定化している訳ではなく、平成30年度は3団体が自立した一方で新規要請が1団体あったところであり、評価の法人コメント欄の記載内容を修正しました。しかしながら、派遣団体が固定化傾向にあるため、事業の実施内容や手法、予算を見直すなど、派遣対象団体の延べ数の拡大に向けて検討を進めていく旨も追記しました。</u></p> <p>2. <u>予算が不足しており、指導者派遣延べ日数を削減せざるを得ない状況の中、一団体あたりの派遣日数の是正を行うことで団体間の派遣日数の平準化を行いました。今後は、1と併せて事業の実施内容や手法、予算を見直すなど、派遣延べ日数についても拡大に向けて検討を進めていく旨を追記しました。</u></p> <p>3. 指導者育成・派遣事業の行政サービスコストにつきましては、<u>H29年度実績値を算出した際、人件費相当額を含めた計算は行っておらず、H30年度実績値についても、人件費相当額を含めた計算とはすべきでないため、その分は除いた値に修正しました。</u></p>
8	スポーツ協会の業務・組織に関する取組①「コンプライアンスに反する事案の発生件数」について【評価シート61頁】	<p>H29年度に発生しH30年度に認識した事案を、<u>H29年度の実績値を修正することで対応しているが、1→0でH30年度は改善されているにも関わらずE評価になり、誤解を与えやすい。</u>このような場合は1か0の数値化にこだわるよりも、<u>状況説明に重点を置き、柔軟に対応した方がよいのではないか。</u></p>	<p>スポーツ協会のコンプライアンスの遵守に関する取組に対する本市による評価として、<u>E評価としたことについては、当該評価の区分選択の理由欄に、平成30年度としては、コンプライアンスに反する事案の発生はなかったものの、平成29年度の違反案件について、外部からの指摘がなければ発見できない組織体質・管理体制にあったことをもって、そのような評価とした状況説明を追記しました。</u></p>
9	シルバー人材センターの本市施策推進に向けた事業取組①「シルバー人材センター受託事業」について【評価シート146頁】	<p>1. シルバー人材センター登録者数が<u>目標値を上回っている一方で、2. 就業実人員が目標値を下回っている現状を鑑みると、経済・社会情勢の変化によるところは大きいと考えられるものの、今後は就業実績を増やすための対策が必要と考えられる。そうした取組状況を示す指標も必要となるのではないか。</u></p>	<p>就業実績を増やすための対策やそうした取組状況を示す指標の設定につきましては、<u>平成30年度の評価結果をもって直ちに判断するのではなく、令和元年度の取組状況も踏まえ、法人と協議の上、令和2年度までに当該法人が策定する「川崎市シルバー人材センター第3期基本計画」の策定作業の中で、令和2年度以降、補足指標の活用も含め、当該指標の設定のあり方について検討してまいります。</u></p>

平成30年度 出資法人「経営改善及び連携・活用に関する取組評価」事前質問回答票

項番	項目	質問・意見	質問・意見に対する考え方
10	公園緑地協会の本市施策推進に向けた事業取組①「緑化推進・普及啓発事業」について【評価シート243・245頁】	1. 広報出稿等回数と、2. 記念樹配布本数の相関は不明であるが、後者の指標の向上には、 <u>チラシの配布対象、配布場所等の見直しなどの方が効果的な場合もあると思われる。数量的な実績だけでなく、質的にも効果の検討、見直しを進めてもらいたい。</u>	記念樹配布本数の改善については、 <u>チラシの配布対象、配布場所の見直しなどが効果的であることから、その旨を今後の取組の方向性の具体的内容欄に追記しました。</u> また、緑化推進・普及啓発事業においては、 <u>数量的な実績だけでなく、質的な効果の検討、見直しを行っていくことも重要であるため、総括表の本市による総括コメント欄に、その旨を追記しました。</u>
11	取組評価シートの見方について	本評価結果を受けて市と出資法人が連携して今後取り組んでいくことは理解できるが、 <u>評価結果に対する出資法人の所見を示す必要はないか。</u> もし、所見等が出ているのであれば、開陳いただきたい。 →資料1の2枚目の「4 各今後の取組の方向性の選択の考え方」、各シートの「改善(Action)」の記述が法人の所見ということによいか。	今回の取組評価からは、 <u>市と出資法人が連携して、評価を行っていくことに重きを置いています。</u> したがって、評価シートの構成としても、 <u>まず、出資法人が各指標に対する達成度について、コメントを付し、それを受けて、市が評価を行い、その結果を踏まえ、再び、出資法人が今後の取組の方向性を示すという、相互連携が図られる仕組みとなっています。</u>
12	市の達成状況の評価が低いものへの出資法人の反応について	特に市の達成状況の評価がDとなっている事業等については、 <u>出資法人側から異論や異議等がある場合も想定されるので、出資法人の自立性等の趣旨にかんがみても、市の評価の再考の手続が必要ではないか。</u>	今回の取組評価からは、 <u>市と出資法人が連携して、評価を行うことを強調してきておりますので、市による達成状況の評価と言っても、一方的に評価するわけではなく、十分に取組状況を確認し、評価基準を説明した上で、評価を行っているものですので、出資法人から異議が出されることは、基本的にないものと考えております。</u>